

初等社会科における社会統合カリキュラム

—米国・シカゴ大学実験学校レイ教諭による実践をもとに—

阪上 弘彬

本稿では、2016年7月2日および5日に広島大学学習システム研究センター主催で行われた講演会「アメリカの教育改革と学校教育の再設計—シカゴ大学実験学校の21世紀型学習—」におけるロブ・レイ教諭の発表「小学校のクラスにおける社会科の統合」および同教諭の編著本 *Homework Done Right: Powerful Learning in Real-Life Situations* をとりあげ、「統合カリキュラム」、「統合カリキュラムとしての社会科の学習内容」、そして「教室と社会・生活をつなぐ学習」の3つの視点から報告・紹介するものである。

3種類の統合カリキュラムの中でも、健全型統合は、子どもの達の社会やコミュニティにおける生活や経験をもとにした社会科の内容や考え方だけでなく、読みや計算の力の活用もまた求めており、社会に関する学習やよい市民の育成が、社会科の枠、時には学校での学習を超えて行われるものであることを示していた。また編著本所収の宿題「選挙人登録により拡大する民主主義」における学習・課題は、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の保障をするものであった。

キーワード：社会科、統合カリキュラム、宿題、教室と社会をつなぐ教育

The Power of Integrating the Social Studies Curriculum with Society in American Elementary Schools: A Review of Rob Ley's Practice

Hiroaki Sakaue

This article aims to report on and introduce Rob Ley's speech "Integrating Social Studies in the Elementary Classroom," organized by the Research Initiative for Developing Learning Systems (RIDLS) on July 2 and 5, 2016, and his collectively written book *Homework Done Right: Powerful Learning in Real-Life Situations*. The article reviews Ley's work from three educational viewpoints: the "curriculum integration," "integrated social studies curriculum," and "education connecting the classroom and the society."

Healthy integration of social studies, one of the three types of integrated curriculum, requires teachers to use not only the perspectives of social studies based on children's/students' life and experience in a community and/or society, but also to include reading/writing skills and mathematics in lessons. Lessons designed to help students understand society and develop into better citizens include assignments that are

completed outside of school, as well as in social studies classes. In addition, a Social Studies assignment titled “Extending Democracy via Voter Registration” in the book promises a “subjective, discussion and in-depth learning experience for students.”

Keywords: Social Studies, Curriculum Integration, Assignment/Homework, Education Connecting the Classroom and the Society

1. はじめに

本稿では、2016年7月2日および5日に広島大学学習システム研究センター主催で行われた講演会「アメリカの教育改革と学校教育の再設計ーシカゴ大学実験学校の21世紀型学習ー」におけるロブ・レイ (Rob Ley) 教諭¹⁾「小学校のクラスにおける社会科の統合 (Integrating Social Studies in the Elementary Classroom)」²⁾ および同教諭の編著本 *Homework Done Right: Powerful Learning in Real-Life Situations* をとりあげる。

本稿では、レイ教諭の発表ならびに編著本を、筆者なりに再構成し、「統合カリキュラム」、「統合カリキュラムとしての社会科の学習内容」、そして「教室と社会・生活をつなぐ学習」の3つの視点から報告・紹介する。

2. 統合カリキュラム

アメリカにおける初等社会科の状況についてレイ教諭は、落ちこぼれ防止法による読み書き等が重視され、社会科の時間が削減されている³⁾と述べている。このような状況下において、社会科は市民を育成するという目標を達成するために、どのような統合カリキュラム⁴⁾がなされているのか。

アメリカでは、統合カリキュラムを使えば、国語や算数の時間で社会科の学習を確保できると思っている教師は多い。カリキュラムを統合することで、①子どもたちは学習をより意義深いものにする、②学習者をやる気にさせる、③指導の時間を節約する、④市民として参画する方法を理解する、という利点がある (レイ, 2016)。

しかしながら、統合の際にも課題が残されており、①計画を立てるのに時間がかかるかもしれない、②間違った指導につながるかもしれない、③見せかけの内容を創り出すかもしれない、という点がある。またカリキュラムの際に、統合が「名ばかり」で、様々な教科の場を借りているだけになり、真の統合に

至っていないケースは多くある (レイ, 2016)。

3. 統合カリキュラムとしての社会科の学習内容

(1) レイ教諭の考える統合

社会科の定義に関して、NCSS (全米社会科協議会) は、市民の能力を向上させるために社会科学と人文科学が統合されたものであり、例えば、人類学、経済学、地理学、歴史学、法学、哲学、政治科学、心理学、宗教、社会科学のような領域とともに、人文科学、数学、自然科学からの内容を利用した組織的で、系統的な学習を提供するものである (レイ, 2016, p.11) と定義する。このように、人文社会科学だけでなく、数学、自然科学といった内容も含まれており、社会の理解、ひいては市民の育成のためには、国語や算数 (数学)、理科にもまたがる社会に関する学習が重要であると捉えることができる。

図1は、レイ教諭の考える統合の観点「内容 (Content)」、「児童のインプット (Student Input)」、「コミュニティの情報源 (Community Resources)」を示したものである。

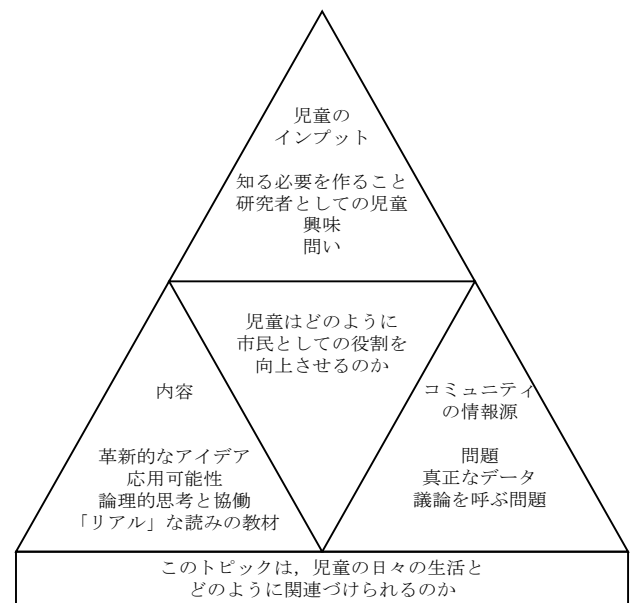


図1 レイ教諭の考える統合の観点

※レイ (2016, p.17) を筆者一部修正。

「内容」には、子どもにわかりやすく、大きな概念・ビックアイデア (Big Ideas) が含まれており、これをもつことで子どもたちが事象を通して考えることができるようになる。

「児童のインプット」は、子どもたちの声にあたる部分である。教師として教えたい内容と、子どもたちが知りたい内容・興味・声の間で、教える内容について常に交渉がなされている。

「コミュニティの情報源」にはデータ、問題、場合によっては人が含まれる。内容を教えるために、レイ教諭は、子どもたち（「児童のインプット」）と情報源（「コミュニティの情報源」）をつなぐ役割を果たしている。

(2) 成功する統合の指針

成功した統合を行うための指針⁵⁾として、

①価値ある社会科の目標を達成するために役立つ手段か、②社会教育の内容を適切に示し、主題の整合を誤って伝えるものではないか、③社会教育に対しての利益は、時間と手間をかけるだけの価値に値するものか、④適切な難易度に合ったものか、⑤教員が働かなければならない制約下（空間、時間、児童のタイプ）で、実行可能なものか、の5つがある（レイ, 2016）。

(3) 3種類の統合カリキュラム

アメリカ初等社会科における統合カリキュラムとして、「言語活動（読み／言語）と社会科の学習内容」、「子どもたちの生活や他のカリキュラム」、「社会科の目標」との関わりから、表1に示すように、3種類に分けられる。

表1 3つの社会科統合カリキュラム

| 分離型統合 | 偽装型統合 | 健全型統合 |
|---|---|---|
| 毎週の読み物もしくは言語の活動に関する内容領域の情報の小さなかたまりは、深められることなく、生徒に提示されている。 | 社会科の内容を言語の授業として偽装している。 | 子どもたちの生活や他の内容領域と社会科のつながりは、系統立てられ、学習者にとって明確なものである。 |
| 社会科の内容は、子どもたちの生活や他のカリキュラムと関連がない。 | 言語活動に日々の指導時間の大部分を使うという義務を果たすために、こっそりと社会科の内容を学ばせている。 | 読み／言語は、子どもたちが世界（そしてその理解を伝える方法）を理解できるようになることを支援するツールとして認識されており、学校教育の目的として考えられていない。 |
| 社会科の目標は、主に、読み／言語能力を強化することであり、生徒が善良な市民になるための準備に焦点化されていない。 | 豊富な空間的あるいは、歴史的内容を備えている読み／言語の教材を教師は選んでいるが、読み／言語のスキルに焦点化している。 | 子どもたちや彼らのもつ内容の知識は、カリキュラムの中心である。 |
| 内容が分離されているので、専門的な思考方法を刺激しない。 | 読み／言語がカリキュラムの中心である。 | 読み／言語の活動は、児童の規律的な心構えの成長に重点を置いている。 |
| | 社会科は、それ自身の教授法をもたない。 | |
| | 内容が別のものとして偽装されているので、専門的な思考方法を刺激しない。 | |

※レイ（2016, p.13）から筆者作成。

1) 分離型統合

カリキュラム統合の際に、子どもたちの生活や他のカリキュラムから社会科が分離させられるのが、分離型統合 (Fractured Integration) である (Bennett and Hinde, p.25)。そのため、表 1 が示すように、市民の育成という社会科の目標の達成ではなく、読み／言語能力の強化が目標であり、社会科の内容は、言語能力に関するものが選択される。

例として、レイ教諭は、国語科に統合された場合、「ホワイトハウスに行ったつもりで冒険記を書いてみましょう」という学習活動を示している。この学習では、社会科の政治に関する「ホワイトハウス」という内容がとりあげられてはいるが、目的はあくまでも冒険記を書くという言語能力の強化であり、社会科の知識や考え方は獲得されない。

2) 偽装型統合

偽装型 (Stealthy) の社会科統合は、教育者がカリキュラムにおいて社会科を存続させる取り組みとして採用する独創的な方法である (Bennett and Hinde, p.27)。社会科の内容に関する読み／言語の教材が教師によって選択されているものの、学習の目標は依然として読み／言語に置かれているため、社会科の目標は達成されない (表 1)。

活動事例として、レイ教諭は「地理的な情景 (丘や山) を含んだ詩を読むこと」や「石炭についてのレポートを書くこと」を挙げている。これらの活動では、社会科の内容に関するもの (例えば、地形や資源) が題材とされてはいるが、社会科の目標が示されないため、「人の欲望の際限のなさ」と資源の有限性」という社会における対立構図や、「資源・環境の保全」といった社会科の考え方や価値観を学ぶことなく、活動がなされてしまう。

3) 健全型統合

この健全型統合 (Healthy Integration) が、社会科において目指すべき統合カリキュラムの姿である。健全型統合によって、生徒たち

は周りの世界や他の内容領域を理解するようになる (Bennett and Hinde, p.27)。その過程では、社会科を中心に内容が系統立てられ、読む力、書く力、そして計算の力が活用される。

レイ教諭は、この統合カリキュラムに基づく実践事例として「政治学習 (The Study of Government)」を挙げている。学習では、児童たちに政治・政府が必要な理由について認識させるために、生活と政府の日々との関わりについて 1 週間記録をとらせ、日々の生活の中にも政府が存在 (例えば、パジャマの素材が法律で決められていること) し、子どもが学ぶべきことがあることを再認識させることから始め、学習の動機づけ (日々の生活との関わり、興味) をした。

4. 教室と社会・生活をつなぐ学習

前章までは、統合カリキュラムを通じて、教室内での社会科の学習事例を述べてきた。しかしながら、レイ教諭の社会科における取り組みの特徴は、教室内の学びと社会・生活との接点を見出すとともに、学びを児童たちの現実の社会・生活につなげる (持ち出す) 点にあり、この点が強く意識されている。

(1) 宿題の意義

学校 (教室) での学びを学校の外に持ち出す、言い換えれば、学校 (教室) と社会・生活とをつなげる際に、役立つのが宿題である、とレイ教諭は指摘する。その中で、レイ教諭は宿題を「意味があるもの」か「意味がないもの」の連続体の中で測れるものとし、両者の特徴を図 2 で示している。

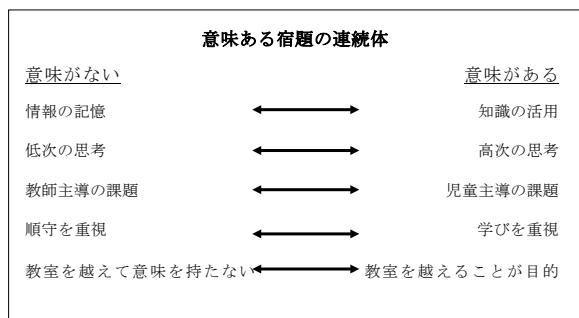


図 2 意味ある宿題

※レイ (2016, p. 14) から引用。

宿題といえば、学習内容の定着・暗記が想定されるが、レイ教諭が意図する宿題では、単なる知識の暗記は意味がないものであるとみなされる。学校で獲得した知識や学習内容を、子どもたち自らが社会・生活の中で、活用することこそが、意味のある宿題である。

加えて、よい宿題が出されることで、親・保護者の役割が変わること⁶⁾を、レイ教諭は指摘している。

では、意味のある宿題とは具体的にどのようなものなのか。次節では、レイ教諭執筆の How can meaningful homework look in the upper elementary grades? 所収の宿題「選挙人登録を用いて拡大する民主主義 (Extending democracy via voter registration)」を通じて、その学習の特徴を示す。

(2) 宿題「選挙人登録を用いて拡大する民主主義」の概要と特徴

事例となる宿題は、上級小学校社会科を対象にしたものであり、表 2 は宿題の概要 (目標や学校の学習とのつながりなど) をまとめたものである。

表 2 宿題概要

| |
|---|
| <p>意味ある宿題の原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人を興味深く、責任ある方法で巻き込むことによって、家庭そしてコミュニティに対して拡張する教育 ・カリキュラムを特徴づけ、今この場を省察すること ・カリキュラムを更新し続けること |
| <p>ナショナル・スタンダード</p> <p>力、権力、そして政府</p> |
| <p>宿題の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童たちは民主主義の範囲内での投票の重要性を理解する ✓ 児童たちは身近な、州、国家の選挙に関連するいくつかの問題を理解する ✓ 児童たちはコミュニティにおけるインタビューや投票者の調査によって、投票行動や姿勢について理解する |
| <p>学校における文脈</p> <p>第 4 学年の市民と政府の単元のいたるところで、児童たちは積極的な参加者そして授業の方向性の決定に貢献する人になった。政府における市民の役割と教室内の児童の役割の間には強いつながりがあった。様々な段階、単元のいたるところで、児童たちは問題に関する立場を判断する自立心が与えられ、自身の学習内で態度を示す重要性をはっきりと理解した。政府と市民の責任の意義と組織的構造を学習するためのアメリカの民主主義の基本原則を授業では用いた。</p> |
| <p>探究スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問をする ・データを収集、分析する ・わかったことを要約、熟考する |

※Ley (2014, pp.81-84) から筆者作成。

以下は、学習の概要・過程をまとめたものである。

本課題は、児童たちが彼らの住む町（コミュニティ）において選挙人登録に関連した重要な問題に答えようとしながら、教室内で学習されている内容を特徴づけるために設定されたものである。課題は2週間続き、わかったことは日々報告され、そして単元に取り込まれた。最初は、家族と一緒にいき、選挙に関するウェブサイトの閲覧（調査）を通じて、コミュニティ内で政治の議論ができる人のリスト作りや選挙人の登録の動向を知るようになり、政治において行動する重要性の議論や、民主主義において投票は不可欠であるという主張が児童の中に準備された。そして課題のいたるところで、選挙に関する様々で重要な質問や認識を教室の学習にもたらしることができた。そして再び、新たな問いが形成され、その問いが単元のいたるところで言及される。この課題はさらに学ぶための目的、必要性を集めるものであった。選挙についてさらに学ぶにつれて、児童たちはより強い好奇心と目的を持って、新聞や教室内にある雑誌を読み始めた。やがて、児童たちは、教師が単元に組み込もうと決して思わなかった複雑な問題を理解するさらに高い能力を示した。

Ley (2014, pp.82-83) から筆者要約。

この宿題では、教室と教室外（社会・生活）との往復が常になされており、教室での学習と子どもたちの社会・生活をつなぐことが強く意識されていることがわかる。学習過程では、教室で学習した内容の活用あるいは新たな問いの解決を教室外に求め、児童たちが新たに獲得した知識がすぐに教室の学習で反映され、再び新たな問い・課題を形成する。またその中では選挙（政治）に関する理解・認識が強化されるだけでなく、児童の学習意欲・興味、政治に対する態度（例えば、政治において行動が必要であるという考え方の獲得）もまた獲得された。

5. まとめ

本稿では、レイ教諭の講演会における発表、ならびに編著本を通じて、落ちこぼれ防止法による初等における社会科の時間の削減、国語等の言語活動が増加するなかで、3種類の社会科統合カリキュラムとその活動事例、および社会科における意味ある宿題の事例を報告・紹介した。

3つの統合カリキュラムの中でも、健全型統合は、子どもたちの社会やコミュニティにおける生活や経験をもとにした社会科の内容だけでなく、読みや算数の力の活用もまた求めており、社会に関する学習やよい市民の育成が、社会科の枠、時には学校での学習を超えて行われるものであることを示していた。とりわけ4章で紹介した教室の内と外をつなぐ学習・宿題は、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の保障をしていると考えられる。

この学びは次期の学習指導要領において導入されるアクティブ・ラーニングによって実現が目指されるものである。文部科学省初等中等教育局教育課程課（2016）によれば、「主体的な学び」には「児童生徒が学習上の課題を把握しその解決への見通りをもつことが求められる。そのためには単元等を通じた学習過程の中で、動機付けとして学習対象に対する関心や課題意識を持つようにすること」（p.43）である。宿題「選挙人登録により拡大する民主主義」では、子どもたちが学習上の課題である問題（選挙・選挙人登録）をとりあげ、学習する過程において、自ら新たな問題や問いを見つけ、解決や調査を繰り返すことで、学習に対する興味や意欲を獲得・強化していた。「対話的な学び」では、「学び合い」や「関わり合い」、活動として実社会の人々の話を聞いたりすることなどが求められている（文部科学省初等中等教育局教育課程課，2016, p.43）。宿題では、投票に行く身近な存在である両親（保護者）とともに学習をした

り、わかったことを教室内で共有したりする学習過程が見られた。「深い学び」では「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする学習の充実が不可欠である」(文部科学省初等中等教育局教育課程課, 2016, p.43)。宿題では、教室内(クラス授業)と教室外(児童の生活経験)を繰り返し往復することで、子どもたちの政治に関する認識を獲得・深化させながら、子どもたちは市民として政治に参加(あるいは行動)する態度やそのための準備(例えば、目的をもって新聞などを読み始めた)を意図的・自発的に獲得・実行していた。

註

- 1) ロブ・レイ教諭は、シカゴ実験学校上級小学校(Lower School)の4学年担任であり、修士(MA)取得、全米専門家教育委員会認定教員(NBCT)である(レイ, 2016)。
- 2) 講演会におけるレイ教諭の発表の目的は、以下の4点であった(レイ, 2016)。
 - ①統合カリキュラムの効果を検討し、社会科を知り、応用することによって、児童が世界を理解する支援を行う。
 - ②児童の動機をよりよく理解する: 感じるものがないなら、知っているだけでは不十分である。
 - ③カリキュラムの不可欠な部分としての、そして児童がよりよい市民になる支援をする必要な手段としての社会科の普及を促進する。
 - ④児童を世界における彼らの役割を理解することへ導き、彼らの世界がどのようにしているかを理解するためのヒントを得る。
- 3) 削減された時間には、読み書きや算数などが充てられている。
- 4) 統合カリキュラムは、様々な定義がなされているが、James Beaneによれば、学校の域を超えた世界と関係があるテーマに取り組む際に、複数の教科領域から探究の知識、スキル、方法を利用する、目的を持ったア

プローチである(レイ, 2016)。

- 5) また、レイ教諭は統合の際に避けるべき落とし穴として、以下の5点を示している(レイ, 2016)。
 - ①社会科の目標を偽装すること、
 - ②内容を歪曲すること、
 - ③犠牲の割に効果が低いこと、
 - ④難しすぎる、もしくは不可能、
 - ⑤一つの教科書やプログラムにあまりにも頼りすぎること。
- 6) レイ教諭は、親・保護者に対して、子どもの宿題に関わること、親・保護者の意見がデータとして使え、教室内にフィードバックできること、を説明している。

参考文献

- Bennett, L. and Hinde, E. R. (2015) *Becoming Integrated Thinkers* (Excerpt). NCSS. http://www.socialstudies.org/sites/default/files/publications/becoming_integrated_excerpts.pdf (2016年10月31日閲覧)
- Ley, R. (2014) How can meaningful homework look in the upper elementary grades? Alleman, J., Brophy, J., Botwinski, B., Middlestead, S., Knighton, B. and Ley, R. eds. *Homework Done Right: Powerful Learning in Real-Life Situations* (pp.80-92). Skyhorse Publishing.
- レイ, R. (2016) 「小学校のクラスにおける社会科の統合」『アメリカの教育改革と学校教育の再設計—シカゴ大学実験学校の21世紀型学習—』(広島大学学習システム促進研究センター(RIDLS)講演会シリーズ No.16 資料), pp.11-18。
- 文部科学省初等中等教育局教育課程課(2016) 「社会科において育成を目指す資質・能力」『初等教育資料』(946), pp.34-43。

著者

阪上弘彬 広島大学/日本学術振興会特別研究員 PD